

初級システムアドミニストレータ 試験対策について

2000H073

瀬崎裕美

初級システムアドミニストレータ試験に出題される問題は、ある程度パソコンの利用経験がある人なら簡単に解ける問題もあるけれども、出題範囲は広範囲にわたっており学習なしで合格できるほど甘くはない、とあるテキストに記述されていました。私はこの試験を1回受験してみて、本当にその通りであると思いました。

初めてこの試験を受験した時に、自分では50%くらい合っていればいいかな、というくらいで、試験勉強は持っていたテキストと、問題集を軽く解いたくらいで他には何もせずに試験に挑みました。その時の結果は当然不合格であったけれども、自分の目標としていた半分はクリアできていたので、次回受験してみて点数がこれ以上取れなかったらこの資格は諦めようと思っていました。その理由は、私が高校の時に約半年ほどこの初級シスアドの勉強をしてきたけれども、全くと言っていいくらいにその内容を理解できなかったからです。そのためこの資格を受験する前から、受かるはずがないという諦めが半分あったからかもしれません。

とりあえず私は試験勉強をする前に、自分に合った勉強法を見つけることから始めました。自分の性格上、長期間コツコツと学習していくことは苦痛であり、試験まで集中力がもたないことは初めから分かっていたので、短期集中で効率よく勉強していくことに決めました。そして、その短期間で初級シスアドの範囲である問題を少しでも多く解けるように、平成9年度くらいからの過去問題が載っていて、解説が丁寧に書かれている問題集を探し、購入しました。私が選んだのは、少し高めな値段の問題集だったけれども、1つの問題に対する解説が細かく書かれていたため、この問題集1冊だけで試験勉強をすることができました。

次に学習内容は、初級シスアド試験の特徴として、年々過去に出題された問題が出題される傾向が高くなってきていたので、数多くの過去問を主に解いていって分からないところはテキストと解説を読み、理解していくということをしていきました。私は特に午前問題が苦手だったので、その中で最も苦手な計算問題と文章問題をやりました。

午前の問題は、広範囲にわたり簡単なものから全く理解できない問題などがあるため、とりあえずテキストの順番通りに過去問題を解くことだけに時間をかけて数回解いてみて、それでも解けない問題を徹底的に勉強しました。

午後問題については、中には例外な人もいるかと思うけれども、それでもこの資格を取得するにあたっては、午後問題の長文設問をどのように学習するかが問題でした。とりあえず午後問題は表計算についての最低限の知識が必要だと思いました。あとその長文の中から解答を探し出すために、読解力が必要

とされました。私は午後問題については高校の頃から情報処理の勉強をしてきていたので、ある程度の基礎知識を身につけていたためにほとんど学習する上で問題がなかったけれど、設問ごとによるあの長文を理解していくことはとても難しいことだと思いました。けれども、過去の問題を解いていくうちに長文の設問の中に答えにつながるヒントが隠されていることがあるということに気づいたため私自身、過去問題を解く以外には午後の問題についてはほとんど勉強をしませんでした。

初級シスアドを受験してみて、とにかく合格するまでに根気強く勉強しなければならぬ試験だと思うし、初めから勉強するつもりがなければ絶対に合格に結びつかないと思いました。でも、私の場合は2週間程だったけれども、その期間だけでもシスアドの試験勉強に時間を費やし、苦手な分野を克服することができれば必ず合格できる資格でもあると言えらると思います。この試験は午前、午後とも65%以上が合格圏内ということなので私は、満点を取ろうという気持ちでやらずに、合格圏内である65%を目標として勉強していたので試験を受ける時に気が楽だったのを覚えています。とにかく試験の時だけ、一時的にでも問題が解ければ合格するんだ、という考えだったからこそ合格することができたのではないかと今は、そう思っています。